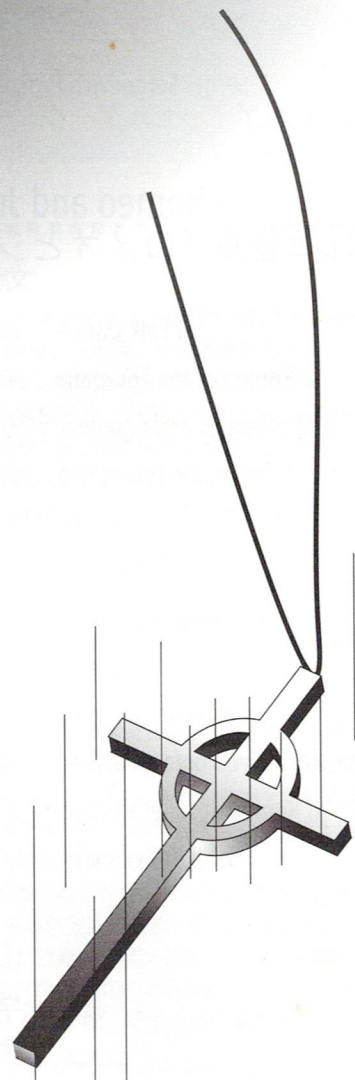


市川市文化祭
第278回市響
ファミリー交響楽

主催：市川市文化課 市川交響楽団協会
後援：千葉交響楽団協会
協賛：京葉ガス株式会社

1999年12月26日(日)
市川市文化会館ホール



第278回市響
ファミリー交響楽

Felix Mendelssohn-Bartholdy(1809~47)
フェリックス・メンデルスゾーン-バルトルディ

Symphonie Nr.4 'Italienische' op.90
交響曲第4番「イタリア」

- | | |
|-----------------------|--------------|
| i Allegro vivace | アレグロ・ヴィヴァーチェ |
| ii Andante con moto | アンダンテ・コン・モート |
| iii Con moto moderato | コン・モート・モデラート |
| iv SALTARELLO/Presto | サルタレッロ/プレスト |



Sergei Sergeevich Prokof'ev(1891~1953)
セルゲイ・セルゲーヴィチ・プロコフィエフ

Romeo and Juliet op.64
バレエ音楽「ロメオとジュリエット」より

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| i Folk Dance | 民衆の踊り |
| ii Romeo at the Fountain | 泉の前のロメオ |
| iii Montagues and Capulets | モンタギュー家とキャピュレット家 |
| iv Juliet, the Young Girl | 少女ジュリエット |
| v Masks | 仮面 |
| vi Madrigal | マドリガル |
| vii Romeo and Juliet | ロメオとジュリエット |
| viii Friar Laurence | ローレンス僧 |
| ix Death of Tybalt | ティボルトの死 |
| x Romeo at Juliet's before Parting | 別れの前のロメオとジュリエット |
| xi Romeo at Juliet's Grave | ジュリエットの墓の前のロメオ |
| xii Juliet's Death | ジュリエットの死 |

語り	山崎千恵子
指揮	早川正昭
管弦楽	市川交響楽団

指揮：早川 正昭

1956年東京大学卒業。1960年東京芸術大学作曲科卒業。指揮を渡辺暁雄氏に師事。翌年東京ヴィヴァルディ合奏団を創設。数回にわたる海外演奏旅行で、自作の「レクイエム・シャーンティ」等を指揮して大成功を博し、国際的に認められる。

1973年、武井賞を受賞。1978年、文化庁在外研修員として渡欧、ウィーンとミュンヘンを中心にバロック音楽と古典舞踏について学んだ。

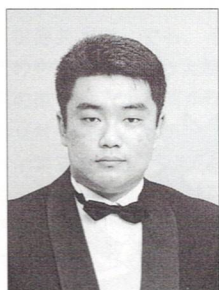
帰国後、新ヴィヴァルディ合奏団の指揮者を務め、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団等に客演。また、ジャン＝ピエール・ランパル、ヘルマン・パウマン、ペーター・ダム等の世界的なソリストとも共演している。

近年は海外に指揮者として'85年にドイツに招かれたのをはじめ

として、'93年、'95年にはロシアに、'97年にはスイスにそれぞれ招かれ、自作品を含むプログラムを指揮し、好評を博している。

作曲作品は多数あるが、その内の数曲が海外で出版され、むしろ外国で演奏されることが多い。ヴィヴァルディに関する訳書もあり、レコード、CDも多数出版している。

現在、広島大学名誉教授、聖徳大学音楽文化学科教授。



トレーナー：村井 音文

1969年東京生まれ。幼少よりヴァイオリンを石井志都子氏に師事。高校、大学共に桐朋学園に於て作曲を専攻（川井學、三善晃、安良岡章夫の各氏に師事）。又、在学中指揮を黒岩英臣氏に師事。1995年から指揮活動をはじめ、各地のオーケストラ、合唱団を指揮。又、オペラでも副指揮や合唱指導で、新宿区民オペラ、主都オペラ、埼玉オペラ協会、コレギウム・ムジクムに参加。現在金井誠氏に師事。四街道合唱団、アンサンブルトニカ、アンサンブル響の指揮者。又放送等の作曲にも携わり、1997年6月、TV朝日の「ネイチャリングススペシャル」の音楽を全編に亘り作曲。現在ヴァイオリンコンチェルトを制作中。



弦トレーナー：根津 昭義

昭和24年1月6日東京（葛飾区）で生まれる。3歳よりヴァイオリンを始める。昭和42年東京大学に入学。翌昭和43年からの学生運動の中で、音楽の道に転身することを決意。昭和46年東京大学卒業後、翌昭和47年東京芸術大学に入学。昭和51年同大学卒業後、NHK交響楽団に入団、現在に至る。山岡耕彦、田中千香士の両氏に師事。現在NHK交響楽団ヴァイオリン奏者、日本演奏連盟会員。

リサイタル、室内楽での演奏活動の他に、地域のアマチュアオーケストラ（市川交響楽団）や後進の指導（Muse音楽教室）も積極的に行っている。

また家族3人でヴァイオリン独奏、ピアノ独奏、ピアノ連弾、ヴァイオリン1台とピアノ2台による合奏と多彩なプログラムによるファミリーコンサートを毎年開く（子供劇場、チャリティーコンサート、学校、幼稚園の音楽教室等）。

メンデルスゾーン 交響曲第4番「イタリア」

上村啓介（コントラバス）

イタリア、それはイタめしの国(当然か…)。セリエA。マフィア。フェラーリ。そして「ロメオとジュリエット」の舞台であるヴェローナの町がある国。イタリアという通称をもつこの曲はメンデルスゾーンがイタリアへ旅行した時に書き始めた交響曲です。旅行といってもただ観光に行ったという訳ではなかったようです。

当時のイタリアは建築、美術、音楽等文化の先進国でした。何と言ってもイタリア・ルネサンス発祥の地。多くのドイツ人作曲家や画家がイタリアへ修行に行ったという記録が残っています。音楽の分野ではイタリアオペラが音楽の主流であり、イタリアは芸術家の憧れの土地であった、と云ってよいようです。そんなイタリアに旅行(修行)するという事はハクを付けるという意味でも重要な事だったのでしょう。

ところで、メンデルスゾーンはお坊ちゃまでした。1809年、ハンブルクのユダヤ系の銀行家の家に生まれ、英才教育(といつかスパルタ教育)を受けたそうです。中でも音楽の才能に目覚めた彼は、後に作曲、指揮などで名声を得る事になります。何と父親の雇った楽士で結成したオーケストラをもって、彼が作曲した曲をすぐに演奏させる事が出来たそうです。桁外れの大金持ちだったようです。

そんなメンデルスゾーンがイタリア旅行に行ったのは、20歳の時。ここでこの交響曲の作曲に着手しました。しかし、イタリア滞在中には完成せず、ベルリンに戻ってから書き上げ、メンデルスゾーン自身の指揮によってロンドンで初演しました(1833年)。しかし、メンデルスゾーンは何を思ったかこの曲を生前に出版しませんでした。曲の出来に満足していなかったため、と言われていています。実際、2版、3版と改訂を重ね、出版の日の目を見るのは作曲家の死後4年経った、1851年でした。もしメンデルスゾーンが早死に(彼は1847年に38歳で亡くなっている)することなく曲を“完成”させていたらどんな曲になっていたのでしょうか。自分にはこの曲の完成度が低いとはとても思えないのですがどうでしょう。

曲は、明るいソナタ形式の1楽章、物憂げな緩徐楽章、スケルツォふうのメヌエット、イタリアの舞曲を取り入れた終曲の4つの楽章からなり、長調で始まり短調で終わるといふあまり例の無い楽章配置になっています。4楽章のサルタレッコとは、イタリアで大流行した民族舞曲で、激しいリズムに特徴があります。この曲の魅力が充分に伝わると良いのですが…。

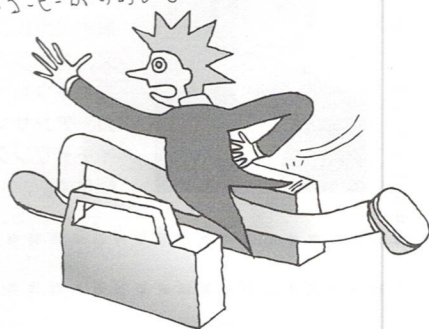


自家焙煎の店 珈琲 タンネ

本店 047-323-2394
JR市川駅北口アイアイロード入り口すぐ

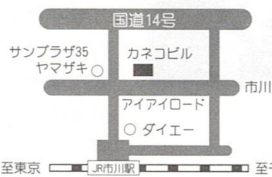
支店 047-326-9783
シャポー1F(千葉より改札出ですぐ)

おいしいコーヒーをめざして



くすり・化粧品 ファーマシー カネコ

047-322-2420
JR市川駅北口アイアイロード入り口すぐ
カネコビル1F(2Fはタンネ本店)



至東京 市川駅 至千葉

プロコフィエフ

バレエ音楽

「ロメオとジュリエット」

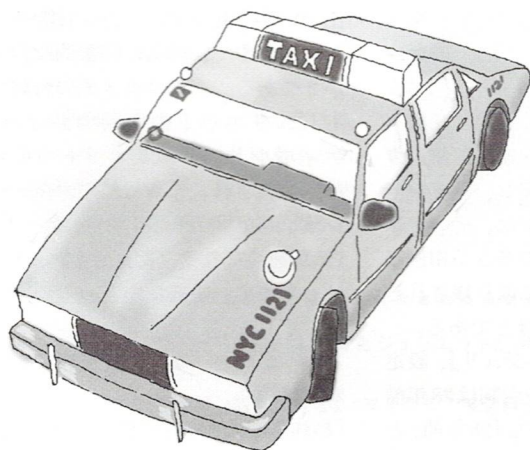
吉田史朗(オーボエ)

人生「たら」「れば」物語

～ロメオがディカプリオだったら、ジュリエットは私～

テレビのゴルフ番組に「たらればショット」というのがありまして、一度失敗してももう一度トライできるという奴です。「今度はこう打ったら入るだろう」、「ああ打っていれば…」といった具合で、やり直しがきく。いや、やり直しのチャンスを与えていただけるといものであります。たいていの場合やり直しても結果は同じことになるのですが、人間欲なもので「たら」「れば」が尽きません。「鱈の話は北海道、レバは肉屋」に任せて、余計な希望は抱きなさんな、あきらめが肝心という、あっさり型人生の方もままおられますが、大方は「たられば」人生を生きていらっしゃる。さて、ロメオとジュリエットですが、この物語が永遠のラブストーリーとして人の心をとらえているのには、秘訣があります。悲しいから、というのも理由の一つでしょう。喜劇は長続きしません。大口あけて笑って楽しんだ後には、何も残らなくて普通です。悲劇は唇を結んでうつむき加減になる。少々容姿に問題があっても、うつむき加減口引き締めスタイルはもの悲しい。悲しいということは美しいのです。世界共通に。でも、それだけではこれほどまでに長い歴史の中で人々をとらえ続けることはできません。もっと、人間の欲を刺激する何かがなくってはね。

ベルリオーズさんもチャイコフスキーさんも、本日のプロコフィエフさんも、それが分かっていたので「ロメオとジュリエット」を音楽で表現したかった。流行作家シェイクスピアさん、人の心を読み切っていた。作曲家諸氏も同様に、これは受ける、と音楽化したのであります。



筋書きは本日の演奏に合わせた解説で十分ご理解いただけますので、物語の裏にあるシェイクスピアさんたちの思惑とは何か、について考えてみましょう。結論は簡単。人生「たら」「れば」物語なのだ、ということであります。人はそれぞれに、人生に夢を抱いています。同時にその夢が次々と破れて、悲惨になっていくことも承知しています。端的な例が人生の最大の関心事である「恋愛」です。恋愛にたらればが通用したら、今頃どんなに素敵な人生になっていたろうと考えたことはありませんか。「ない」と答えた方、あなたは嘘つきです。

高校生時代に付き合っていた彼女、先日同窓会で久しぶりに会ったら美しさに磨きがかかっていた。才色兼備で格好良かったなあ。あいつと結婚していたら…なんてことありますよね。クラブの憧れの先輩、この前街ですれ違いざまに声をかけてくれた。背広が決まっていた商社マン。格好良かったなあ。学生時代のあの時思い切って彼の胸に飛び込んでいたら、今頃彼の奥さん…。

本日の演奏に自分をだぶらせてみてください。貴男は友のため、愛のために命を懸けて戦わなくてはなりません。貴男がロメオだったら、愛に命を懸けて死ねますか。貴女がジュリエットだったら、48時間、真っ暗な狭い棺桶の中で仮死状態になってまで、愛する人と一緒になりたいと思いますか。「相手がディカプリオだったら、私は……」。ほんとかしら。いつまでもたらとればでは飽きられますよ。今の相手にも。

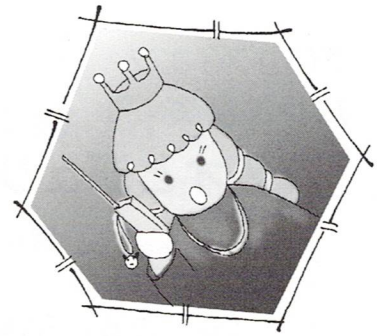
(ロメオとジュリエットは難曲です。物語が物語だけに作曲家が思い切ってリキ入れて凝りに走るからです。本日の演奏も結構「もう一回、お願いします」という難しいフレーズが点在しています。オーケストラメンバーにとっても、本日が「たられば大会」にならないよう草葉の陰からお祈りしています。本日降り番のオーボエ吹きより)

薔 薇

の

名

前



文 谷口 仁美 (パーカッション)

昔、英語のテキストにこんな笑い話があった。初めてシェイクスピアの芝居を見に行ったイギリス婦人の話である。芝居を見終わった後、彼女はこう言うのだ。

「シェイクスピアが大家作家だなんてとんでもないわ。ただイギリスの格言をたくさん並べているだけじゃない！」

シェイクスピアが出典の格言は多い。『ロメオとジュリエット』もご多分に漏れず、格言・名句に満ちている。中でも有名なのが、バルコニーでの二人の会話に現れるこの台詞ではないだろうか。

「私たちがバラと呼んでいるあの花の、名前がなんと変ろうとも、薫りに違いはないはずよ^{*1}(That which we call a rose by any other word would smell as sweet^{*2})」…が、果たして本当にそうなのだろうか？

映画『ロメオとジュリエット』

『ロメオとジュリエット』は恋愛物語の永遠のテーマだといわれる。最近ではレオナルド・ディカプリオのロメオとクレア・デーンズのジュリエットが記憶に新しいが、この名のもと映画化された作品は優に10本を超える。

ディカプリオ&デーンズの『ロメ・ジュリ』^{*3}は、時を現代に移し、ロメオの衣裳は派手なアロハシャツ、持っているのは剣ではなく銃、乗るのも馬ではなく車。また、スローモーション、クイックモーション、空撮、特撮など、めくるめく映像も圧巻で、殊に冒頭、両家の郎党がガソリンスタンドで衝突し、スタンドが炎に包まれるシーンは、そのテンポの速さに登場人物の多さが相俟って、のっけから展開に取り残されそうな危機感を感じたほどである。

しかし、この『ロメ・ジュリ』、設定は変わっても、場面や台詞は28年前とほとんど変わらない。「28年前」とは、レナード・ホワイティングとオ

リヴィア・ハッセーの『ロメオとジュリエット』^{*4}のことである。監督はオペラの演出家としても有名なフランコ・ゼッフィレリ。初めて「舞台の写し」的な域から抜けて、映画ならではの『ロメオとジュリエット』を創り上げたとして絶賛された作品であり、『ロメ・ジュリ』の映画といえばこれを真っ先に思い浮かべる人も多いだろう。当時15歳のオリヴィア・ハッセーの可憐なこと、可憐なこと、ロメオが一目で恋に落ちたのも十分うなずける。

出会いから死までたった4日間のこの物語の中で、非常に印象的な台詞が2つある。それはロメオの台詞でもジュリエットの台詞でもない。ティボルト(ジュリエットの従兄弟)に刺され、死ぬ寸前のマキューシオ(ロメオの親友)が叫ぶ、「気が遠くなりそうだ。ええい、くたばっちめえ、手前たちどっちの家もだよ！」

という台詞と、映画では最後に太守が言い放つ、「われら一人残らず罰を受けたのだ」という台詞である。





『ウェスト・サイド物語』⁵

この台詞は再び時と場所を移して結晶化される。

その時は1950～60年頃、場所はニューヨークの下町、ウェスト・サイド。レナード・バーンスタインの音楽で我々オーケストラプレイヤーにも馴染みの深いミュージカル『ウェスト・サイド物語（ストーリー）』においてである。いがみ合う2つの名門はいがみ合う2つの不良グループ（ジェット団とシャーク団）に、公平さを体現していた太守は有色人種に偏見をもった警官に変わってはいるが、紛うことなくこれは『ロメ・ジュリ』である。気をつけて追ってみると、多少形を変えてはいるものの、さきに触れた2つの映画にあったどの場面も省略されていない（ただし、出会いから死までの時間は更に縮まって、わずか2日になっている）。

しかし、この『ロメ・ジュリ』とさきの『ロメ・ジュリ』との間には決定的に大きな違いがある。『ウェスト・サイド物語』でのジュリエット・マリアはロメオであるトニーの後を追って死にはしない。彼女はトニーを撃ったチノの拳銃を拾い、立ち去ろうとするジェット団・シャーク団の両方を呼び止めてこう言うのだ。「まちなさい／みんなが彼を殺したのよ 兄さん（シャーク団の頭）もリフ（ジェット団の頭）も／銃ではなく一憎しみで／わたしも殺すわ 憎いから／何人殺せる？ わたしの分あるの？」

場の全員を圧するこの台詞の底に流れるのは、マキューシオと太守のあの台詞に他ならない。『ウェスト・サイド物語』には薔薇の名前を問う名

句はない。そこから敢えて視線を外すことでリアルな社会性を湛えたわけである。



『サンプルAとB』⁶

さて、更に視線を移して『ロメ・ジュリ』を描いた作品がある。移すも移したり、宇宙人の目を通して作成されたレポートという形をとる、藤子・F・不二雄原作の『サンプルAとB』である。時代と場所の設定は原作どおり（もっとも作品中では「QL831 渦状星雲の周辺部小さな恒星系の第三番惑星」から「無作為に」選ばれた場所、となっているが）。

この宇宙人は人間よりはるかに進んだ文明をもっている。しかし、宇宙人であるから、ロメオの名もジュリエットの名も知らない。いがみ合う集団をAとBという2つのグループに分類し、それぞれのグループから一個ずつの観察対象を選んだ結果が、サンプルA（ロメオ）とサンプルB（ジュリエット）なのである。

話もちろん原作どおりに進んでいくが、なにしろ宇宙人のレポート、客観的記述に終始し、そうすると名句もカタなし。かえって奇妙でさえある（「今聞えたのは、あれはナイトィングイル、雲雀じゃありません



わよ）も「あの大気振動は昼行性飛行小型生物によるものではない。あれは夜行性飛行小型生物のものである」となってしまうのだ。

二人が命を絶った後、この宇宙人の最大の疑問が提示される。「（サンプルAとBが求め合った）あの激しい力は果して不変の物なのか？／それともやがては風化し変質していく物なのか……」。それを確かめるため、この高等生物である宇宙人は、二人を掘り出して再生し、無人島へ送る。そして最後は「奇妙なことに我われは結果を確認していない。／あの夜、第三番惑星を離れてすでに500年／いまだに我われは実験の結果をみとどけに行こうとはしていない」と結ばれるのである。

その瞬間、それまでの可笑しさは一気に冷め、鋭さに慄然となるのだ。

名前がなんと変わろうとも、『ロメ・ジュリ』は『ロメ・ジュリ』、しかし、その薫りは……。

因みに「いつか本に、ばらはたとえほかのどんな名前でもおなじように匂うと書いてあったけれど、あたしどうしても信じられないの。もしばらが、あざみとかキャベツなんていう名前だったら、あんなにすてきだとは思われないわ⁷」と言ったのは『赤毛のアン』の主人公アン・シャーリーである。

Notes

- *1) 以下、日本語の引用は『ロミオとジュリエット』（中野好夫訳／新潮文庫）
- *2) 『シェイクスピアの名せりふ』（マイケル・マクローン著／The Japan Times）
- *3) 1996年公開

*4) 1968年公開

*5) 1961年公開／ジョージ・チャキリス ナタリー・ウッド

*6) 以下、この作品からの引用は『藤子・F・不二雄【異色短編集】気楽に殺ろうよ』（藤子・F・不二雄著／小学館）

*7) 『赤毛のアン』（L.M. モンゴメリ著／村岡花子訳／新潮文庫）

市川交響楽団
本日の出演者

icbikyō members

コンサートマスター
立田 祥子

第1ヴァイオリン

石本 恵理
上原 剛介
笠松 秀臣
西藤 寧
島原 千晶
鈴木 薫 *
高田 賀夫
竹内 まり
永田 匡
二宮 伸雄
福原 亜希
松延 裕子
横田富美子

第2ヴァイオリン

上田佳津子 *
鎌田 真貴
亀井 玲子
河村 智行
木本 幸子
島原 千晶
寺村 真紀
根守 弘和
久田しげ子

平野 弘子
溝田 範子
村上 葉子
村田 康代
横田佐貴絵

ヴィオラ

浅野さとみ
内田 綾美
斉藤十一郎
相馬 正典 *
奈良林弘子
野中 彩乃
原口 博司
星 乗昭
村上 賢一

若林 繁
渡部 玲子

チェロ

池田 寛之
岩田 理人
瀬川 清
田頭 扶
土屋 卓志
中村 公一

根岸 朋子
野中 能久
日澤 優
福原 耕二 *

コントラバス

上村 啓介 *
菊池 克彦
鈴木 重則
政井 琢
宮崎 麻子
宮本 彰
向山 則子
吉田健一郎

フルート

木村 純一 *
木村真諭紀
佐藤 洋行

オーボエ

二村 直子 *
深町 和良
山地 順子

クラリネット

井垣 貴嗣
一瀬 直美
時田 雄
半藤 嗣人
吉野 智久 *

ファゴット

伊吹 直子
金坂 哲 *
菅原 斉
高橋 幸世
古屋 文弘

ホルン

近藤 利昭
嶋村 恒夫 *
林田 朋子
藤井 茂司
山内 正晴
山本 恭子

トランペット

安藤 宣明 *
一桙 泰一
新井本昌宏

トロンボーン

古屋 義和
藪崎 裕至 *
渡部 徹

チューバ

谷口 浩 *

打楽器

石澤 恵子
岩橋 正治
田中 康信
谷口 仁美
都筑 裕 *
若月 宣宏

ハーブ

小橋ちひろ

ピアノ/チェレスタ

鈴木 珠美

テナーサクソ

萱場 夏子

*パートリーダー

コンサートマスター紹介

本日の演奏会より市川交響楽団のコンサートマスター制度が新しくなり、コンサートマスターの複数制がとられることとなりました。新しいコンサートマスターの下、団員一同いっそう充実した音づくりを目指していきたくと思っています。

新制度初の任に就いたお二人をご紹介します。

立田 祥子

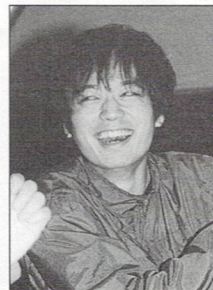


入団後、その綺麗な音色で注目の的となった立田さん。華奢な背中から鋭く出る合図で、後ろから見てもくいくいと市響をリードしてくれるのが分かります。その一方、パソコンで印刷した家族のイン

コ達の写真を見せてくれたり、配られたプリントの端にインコが写っていたり、とさりげなくお茶目な面を見せてくれます。今日の本番終了後、打ち上げの場でもコンミス（コンパミストレス）としての技量が注目されるどころであります。みなさまは、今日は演奏面でお楽しみ下さい。

(鈴木薫/Vn.)

上原 剛介



彼は一見口数が少ないように見えるが実は違う！ お酒の席では音楽への熱い思いを語ってくれる（でもこの人、いくら呑んでも酔わないんだな…。「この曲をこんな風に演奏したい！」というVision

を明確にもち、ある時は繊細にある時は情熱的に表現し、リードしてくれます。彼は市響男性団員の最年少なのに、意外とおやじっぽく…いや、あの、とても大人で、？歳年上の私のほうがなだめられる事もしばしば…頼もしい限り！ 今年6月の本番では、目頭を熱くしていたのを私は見逃さなかった！ そんな人です。

(横田佐貴絵/Vn.)

房総文化憲章

房総の緑と海と土をいしえずとし 先人のたゆまぬ努力によって はぐくまれてきた文化を 一層発展させ 誇りをもてるふるさと房総を築いていくことは 私たち県民 すべての願いです。

社会の移り変わりのなかで ともすれば失われがちな 人と自然との調和や人と人とのきずなを見つめ直し うるおいや 喜びをもたらしてくれる心豊かな県民文化を創造していくことが 今 求められています

私たちは 一人ひとりが文化の担い手であることを自覚し ささまざまな文化との交流を進めつつ 世界に開かれた文化県をめざしてここに房総文化憲章を定めます

1. 一人ひとりが 文化を愛する心を はぐくみ 県民文化の創造に 参加しよう
2. 地域の特徴を生かし 水や緑との調和や 心のきずなを大切に 村や町づくりを おこなおう
3. 私たちの 財産である伝統文化や 文化財を守り 受けついでいこう
4. 空と海とを通じ 世界に開かれた房総の 特徴を生かし 国際文化交流を進めよう
5. 文化の 視点に立って 行政を進め 心豊かな 県民文化の創造を 支援しよう

昭和60年11月3日制定

市川市 市民憲章

わたくしたちは 江戸川の流れと松の緑に象徴される郷土市川と その自然を愛し 由緒ある史跡と伝承をまもり育て 文教都市にふさわしく 教育と文化を重んじ 人間性豊かな調和のとれた明るいまちをつくるために つぎのことを定めます

1. きれいで 安全な より住みよいまちを つくりまします
1. 親切で あたかい 希望にみちたまちを つくりまします
1. 教育と文化をそだて かおり高いまちを つくりまします
1. 健康で 楽しく働く たくましいまちを つくりまします
1. みんなの幸せを願い 豊かな福祉のまちを つくりまします

昭和52年11月3日制定

市響の演奏会のお知らせ

2000 **3/12** (日)
第280回市響 室内楽の午後 特別編
オペラ・ガラ コンサート

独唱:

市川市文化会館新人演奏会出演者

磯地 美樹 (メゾソプラノ) (第11回)
中園 陽江 (ソプラノ) (第10回)
錦織 瑞菜 (メゾソプラノ) (第10回)

特別ゲスト:

西野 薫 (ソプラノ)
田 大成 (テノール)
大間 知覚 (テノール)
上江 法明 (バリトン)
山口 邦明 (バリトン)

指揮: 金井 誠

～曲目～

第一部 『モーツァルトのオペラ』
『魔笛』より 私は鳥刺し 他
『フィガロの結婚』より
もう飛ぶまいそこの蝶々 他

第二部 ビゼー『カルメン』より
第二幕への前奏曲 (アルカラの龍騎兵)
ジプシーの歌 他

第三部 ヴェルディ『椿姫』より
前奏曲
ああ そは彼の人か～花から花へ 他

市川交響楽団 (市響) は、いろいろな職業をもつ幅広い年齢層の団員で構成されている市民オーケストラです。社会人の方で、オーケストラで演奏経験のある方、こちらに引越してきたのだけどいいオケないかな、といった方はぜひご参加ください。

見学や入団ご希望の方は、下記であてお問い合わせください。

(弦) 福原 TEL 043-279-2026

(管・打) 時田 TEL 03-3600-0063

FAX 03-3600-0293

市響インターネットホームページ

<http://plaza28.mbn.or.jp/~ichikyoy/>

また市響が所属する市川交響楽団協会には、歌を歌いたいのだけどという方に市川混声合唱団、行徳混声合唱団、いや私はブラスバンドがいいなという方には市川交響吹奏楽団、高校生以下の方には市響ジュニアオーケストラがございます。こちらにもぜひどうぞ。

市響ジュニアオーケストラ 団員募集中

募集楽器: ヴァイオリン・ヴィオラ・
チェロ・コントラバス・
オーボエ・クラリネット・
ファゴット・ホルン・トロンボーン・テューバ

年齢: 小学生～22歳まで

練習日: 毎週日曜日 10時～16時

練習場所: 平田小学校音楽室

(練習場所が変更になる場合もあります)

連絡先: 高橋 047-371-8040